



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2016年6月12日(日) 9:30~12:00

(曇り)

参加者 一般:10名(うち子ども5)

指導員:6名

テーマ 「カワラマツバを見てみよう」

今回のテーマはカワラマツバですが、鳥好きな子、虫好きな子など5人が参加し、動物の方に目が向かいそうです。

公園部分でナツツバキやタイサンボクの花を見て川原に出ると、昨年も見た場所でアメリカネナシカズラの黄色の蔓が伸びていました。草刈りがされる場所ですが、強い生命力です。

その近くにカワラマツバが咲いていました。カワラマツバは川原に多く、松の葉のような細い葉から名付けられました。これまで詳細に見ずに来ていましたが、今日のテーマとなっている花なので、しっかり観察しました。まずは花の香りを嗅いでみましたが、好みが分かれませんでした。葉を数えると1箇所から8枚程が輪生しているように見えます。しかし、図鑑によると葉は2枚が対生し、葉と同じ形の托葉がついて、輪生しているように見るとのことです。花は小さく肉眼では確認困難ですが、ルーペで見ると雄しべが4本あることが分かりました。

アカメガシワの花にはセイヨウミツバチやコアオハナムグリなどの虫が集まって、賑やかでした。

低水敷の草原に外来種のマンテマの花が咲いていました。見落としそうなお小さな赤い花ですが、よく見るとなかなかきれいです。その近くにはカワラサイコの黄色の花が咲いていました。一昨日下見した時にはまだ蕾の状態でしたが、変化は早く、今日はけっこうたくさん咲いていました。

さて、先月ヒサウチソウやセイヨウヒキヨモギが咲いていた堤防は草刈りがされていて、その後に伸びたコウソリナなどの花が目立ちましたが、よく見ると小さなヒサウチソウがまだ花をつけていました。この外来種の根絶はなかなか難しそうです。

この時期、林の中ではドクダミの花が目立ちます。4枚の花弁のように見えるのは総苞片ですが、稀に5枚あるいは6枚のものがあります。通常3枚のクローバの葉に4枚のものが混じるのと同じようなことなのでしょう。探してみると参加していた子どもが5枚のものを見つけてくれました。

子どもたちは植物よりもベニシジミやショウリョウバッタを追いかけたり、水路の中のアメリカザリガニを捕まえたりして楽しんでいました。子どもが参加すると、大人とは違うものを見つけてくれ、面白い観察会になりますね。

<その他観察できたもの> 花:ヒメブタナ、ネジバナ、ニワゼキショウ、ノアザミ、シロツメクサ、ヒメジョオン、オオキンケイギク、ニガナ、コマツナギ、クララ、ミナトマツヨイグサ、モクゲンジ
鳥:ツバメ、オオヨシキリ(声)、ウグイス(声)、ヒヨドリ、ホオジロ、キジバト、ムクドリ、メジロ(声)、ハシボソガラス、アオサギ、 昆虫:モンキチョウ、モンシロチョウ、キタキチョウ、ツバメシジミ、キマダラセセリ、トンボエダシャク、カノコガ、カナブン、ナミテントウ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ショウジョウトンボ、クロスジギンヤンマ、クマバチ



(観察会のようす)



(カワラマツバ)



(マンテマ)